

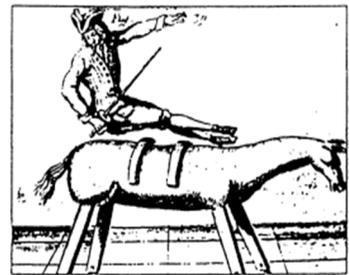
「跳び箱の元祖は馬」

—跳び箱運動の始まりは乗馬術—



跳び箱の元々の形は、木馬

木馬と言うのは、新米の兵士が馬に乗るための木で出来た練習道具でした。冬は部屋の中に、夏は外におかれていました。木馬の歴史は古く、紀元390年の、ローマ帝国の書物に出てきます。新米の兵士は、初めのうちは武器を持たずに、木馬に乗るけいこをしていました。そして、木馬に乗るのがうまくなっていくと、よろいをつけたり、剣を持って、木馬に乗ったり、おりたりする練習をしていました。兵士は、馬の右からでも左からでも乗れるようにしなければなりません。また、馬からおりるときでも、剣をぬいたままや、手に槍(やり)を持ったままでおりるようにしなければなりません。このように、重いよろいをつけて、手には剣を持って馬に乗る兵士のための訓練として木馬が使われていたのでした。



やがて、馬に乗る乗り方が、「乗馬術(じょうばじゅつ)」という一つの学問として成り立ちます。そして、どれだけ美しく馬に乗れるのか、どれだけ大きくダイナミックに馬に乗れるのかを、中世ヨーロッパの人々はきそいあったのでした。

鞍馬(あんば)のはじまり

中世ヨーロッパでは、馬に乗るための訓練として、貴族や騎士(きし)たちは木馬を使用しました。でも、木馬を使うのは、馬に初めて乗る人たちだけで、慣れてくると本当の馬を使って練習しました。木馬を使っての練習は、ほんの一部の人たちのおこなわれていただけで、多くの人がおこなったものではなかったのです。

14世紀になると、火薬が発明されたことや、戦い方もかわってくると、騎士がおちぶれてきます。戦争で馬に乗って戦わないようになってきたからでした。すると、「乗馬術」も、身分の高い貴族の中だけで行われるようになりました。その中でも、貴族の子どもたちが通う学校の授業の中だけで行われるようになりました。

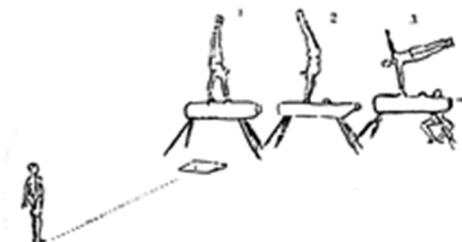


貴族の学校では、馬にとび乗ったりおりたりする運動だけでなく、鞍(くら)の上で片足を回したり、交差(こうさ)させたりするいろんな運動が行われるようになりました。この運動が、鞍馬のはじまりだと考えられています。

鞍馬(あんば)と跳馬(ちょうば)

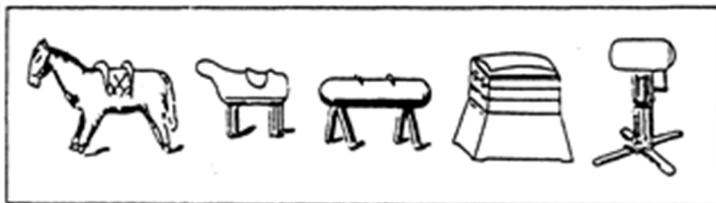
現在の体操競技には、鞍馬と跳馬があります。馬の上で足の交差や旋回(せんかい)を行うのが鞍馬。走ってきて、ロイター板(ふみきり板)をふみきって、手をつけて馬をとびこすのが跳馬です。同じ馬を使った運動でも、鞍馬には、把手(とって。ポメルと言います)があり、跳馬にはありません。ということは、今学校でやっている跳び箱は、跳馬の運動の一部だと言えるでしょう。

現在では、まったくちがう運動として、跳馬と鞍馬があるのですが、17~18世紀ごろには、絵のように跳馬と鞍馬の区別がなく、同じ運動として行われていたのです。今の鞍馬を使った跳馬の運動も、このころにはあり、当時は、跳馬と鞍馬は、同じ馬を使う運動として行われていたのです。



器械体操は、1800年ごろからドイツを中心に急に広まりました。体操を広めた一人である「ヤーン」という人は、ハーゼンハイデという所に、体操所を作り、いろいろな器具をおいて体操を広めました。どうして、体操が多くの人にうけたかという、一つの号令で、多くの人を同じ運動を行わせることができたからです。兵士の体力をつけるために体操がさかんに行われたのです。ヤーンは、木馬の運動を、跳馬運動、鞍馬運動に分けて練習させるようにしました。このころから、跳馬と鞍馬は別々の運動として行われるようになりました。

以上、跳び箱の歴史を見てきました。その歴史は、馬に乗るための運動から発展してきたことがわかったでしょうか。跳び箱の元はと言えば、その乗り方をいろいろ考え出す運動でした。決して、「4段の次に5段をめざす」そんな運動ではなかったと言えます。なのに、今学校で行われている、跳び箱は、高く跳べることをめざす、本当につまらない運動になってしまったと言えます。そして、跳び箱を跳べないことで体育ぎらいになる子どもをたくさんつくってきました。跳び箱なんだから跳ぶことは、当たり前ですが、先生は、中世の騎士のように、走ってきてとび乗る運動であってもいいと思うのです。もちろん、その時は、跳び箱でなく『乗り箱』と言ってはどうでしょうか？



木馬からとび箱へ

